

主催：社会福祉法人青森県社会福祉協議会 あおもり介護生産性向上相談センター
「2025 介護テクノロジー展＆生産性向上の取組み応援セミナー」

生産性向上取組のポイント

株式会社TRAPE
カスタマーサクセス 斎藤 陽

本日のアジェンダ

なぜ今、生産性向上が必要なのか？

介護における生産性向上とは何なのか？

どのように改善活動を進めていけばいいのか？

準備8割ワーク

自己紹介



齋藤 陽 (さいとう よう)

株式会社TRAPE

カスタマーサクセス

大学で理学療法士の資格を取得後、総合病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、小規模多機能型居宅介護など、多様な医療・介護現場で理学療法士として勤務。

その後、介護事業所責任者・マネージャーを務める中で、中間管理職・リーダーの育成やサポートの重要性を実感する。現在は株式会社TRAPEで介護現場の生産性向上・経営改善を中心に、伴走支援型のコンサルティングを行い、リーダー育成、職員の働きがい向上、組織づくりにも注力している。

株式会社TRAPE（トラピ）のご紹介

生産性向上くん[®]



介護現場の生産性向上の取組
成功させる鍵となる

準備8割 チーム作り
課題の見える化

をサポートするために生まれました



生産性向上ガイドラインに準拠

現場のリアルな「今」を把握するための
「アンケート」や「タイムスタディ」を何度も実施できます

利用料ずっと0円



since2020



Sociwell
ソシウェル

事業所の生産性向上・人材育成・経営改善

- ・現場の働きがい向上のための6ヶ月実践プログラム
- ・経験学習によりミドルリーダーがマネジメントを習得
- ・自分たちで課題が解決できる現場自律力をつける

フルオンラインで「伴走支援」を行い、数多くの事業所が成果を生み出しています

都道府県・
市町村事業

企画-実行-成果創出まで一気通貫の事業パートナー

- ・モデル事業を通じた政策支援、エビデンス創出
- ・生産性向上の推進、介護DX推進、地域内横展開
- ・介護予防推進、成果創出に向けた政策見直し支援



伴走支援

No Role No Life

素敵な役割のあふれる日常を創る
well-being



会社所在地：大阪（新大阪駅 徒歩8分）

特徴：全国各地にメンバーが在籍し、
フレリモートで柔軟に働いています

さまざまな伴走支援実績

ケアプランデータ連携システム-モデル事業

山梨県ケアプランデータ連携促進に向けた「伴走支援」

山梨県・山梨県社会福祉協議会 「ケアプランデータ連携促進モデル事業」に株式会社TRAPEが採択 一「個別ヒアリング」、2種類の伴走支援により地域全体で進める生産性向上の取組みを支援 一



富士河口湖町をモデルに実施



遠隔操作機能により弊社が事業所のPC操作を直接手伝い
ケアプランデータ連携システムの導入支援を行うことも可能です
導入に対する心理的ハードルを軽減します



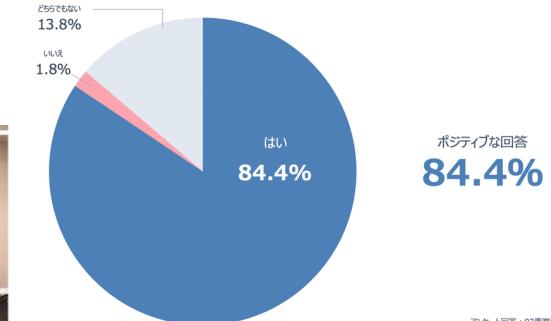
ケアプランデータ連携システム体験会の様子

介護分野における生産性向上ガイドラインの作成など、2017年の翌年頃から農山漁村のさまざまな施策づくりに深く関わり、ウェビナー等に沿った力探し所を創出するために「生産性向上」「働きがい向上」「リーダー育成」の3つを一度に実現することができる生産性向上伴走支援サービス「Society (ソシエティ)」を開発している株式会社TRAPE(本社: 大阪府大淀市、代表取締役社長: 鎌田大啓)は、この度令和6年度山梨県・山梨県社会福祉協議会「ケアプランデータ連携促進モデル事業」に採択されましたのでお知らせいたします。

効果的なテクノロジー導入・活用に向けた実践セミナー



今回のワークショップ体験は、今後のICT機器の選定・導入・活用に活かせそうですか？



アンケート回答：93事業所 1096名

47

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護助手-モデル事業



株式会社TRAPE

デイサービスの経営改善プロジェクト

JC 公益社団法人
全国老人福祉施設協議会

令和4年度・令和5年度 デイサービスの経営改善プロジェクト



All Rights Reserved. TRAPE Inc. |

5

介護における生産性向上支援の流れと弊社の関与



なぜ今、生産性向上が必要なのか？

介護事業所から聞こえてくる2つの声

現状(課題)

何かバタバタして忙しい…

突発業務に追われてしまう…

残業が多く、休暇もとりにくい…

書類業務に追われてしまう…

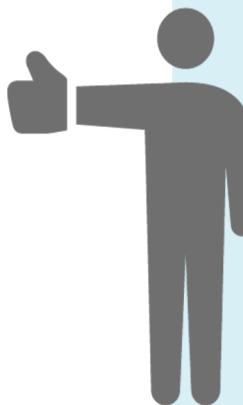
テクノロジー機器を導入したが
うまく活用できていない…

利用者と過ごす時間を思うように
取れない…



ありたい姿

落ち着いて業務に向き合うことが
できている



残業がなく、休暇がしっかり取ること
ができている

スマートに書類業務を行うことが
できている

テクノロジー機器を活用して、いいケア
の実現に力を込めることができている

利用者とたくさん過ごす時間を生み出
すことができている

「ありたい姿」と「現状」の間にはギャップが生じやすい



ギャップが生じる背景は社会環境の変化

外部環境はさまざまな変化の連続



人口構造の変化

テクノロジーの進化

環境変化に適応する手段が「生産性向上」



**自分たちの日常（業務）を自ら変えるチカラ
をつけて、環境に適応していく**

人口減少による人の希少価値の高まり (職員、利用者・家族)

人的資本経営への転換

- 職員を「利益や価値を生む存在」として、"資源"ではなく"資本"と位置づけ、投資の対象として捉える
- 一人ひとりの成長と貢献を促進する環境づくりを進める

人への積極投資



利用者中心のサービス革新

- 利用者とその家族が「自分らしく生きること」を支援する新たなサービスを生み出す
- 利用者満足と職員のやりがいを同時に高める好循環を生み出す

職員への「いい体験」の提供

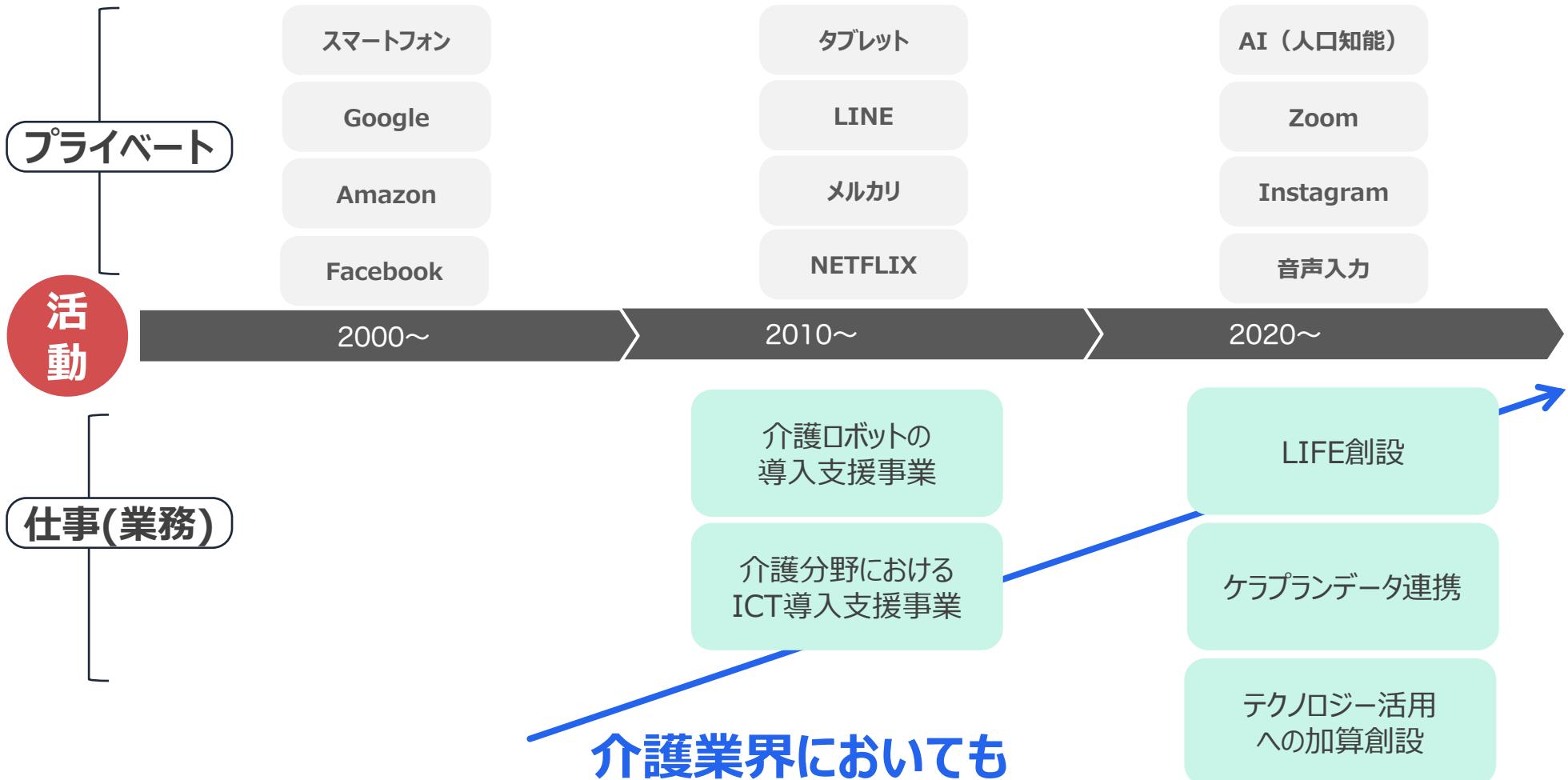
- 「働きやすさ」という土台の上に「働きがい」を生み出せる環境を構築
- 介護職の働きがい = 利用者と関わる中で生み出される傾向にある

発展する組織へ

- 人材の**育成・定着・確保**の好循環により、社会環境の変化に適応しながら成長し続ける組織文化を構築

「活動」との向き合い方のアップデート

日常生活で身近になったテクノロジーの例
テクノロジーは私たちの日常生活に深く浸透している



介護業界においても
テクノロジー導入が急速に進んでいる

介護テクノロジー利用の重点分野 (9分野16項目)

移乗支援（装着）

介助者のパワーアシストを行なう装着型の機器



移乗支援（非装着）

介助者による移乗動作のアシストを行う非装着型の機器



移乗支援
普及率 9.7%

移動支援（屋外）

高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器



移動支援（室内）

高齢者等の室内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内の姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器



排泄支援（排泄物処理）

排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ



排泄支援（排泄予測・検知）

排泄を予測又は検知し、排泄タイミングの把握やトイレへの誘導を支援する機器



排泄支援
普及率 0.5%

排泄支援（動作支援）

ロボット技術を用いてトイレ内の下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器



見守り（施設）

介護施設において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム



介護業務支援

介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等への介護サービス提供に関わる業務に活用することを可能とする機器・システム



介護業務支援
普及率 10.2%

機能訓練支援

介護職等が行なう身体機能や生活機能の訓練における各業務（アセスメント・計画作成・訓練実施）を支援する機器・システム



移動支援（装着）

高齢者等の外出等をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器



移動支援
普及率 1.2%

入浴支援

入浴におけるケアや動作を支援する機器



見守り（在宅）

見守り（在宅）

在宅において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム



コミュニケーション

高齢者等のコミュニケーションを支援する機器



見守り・コミュニケーション
普及率 30.0%

食事・栄養管理支援

高齢者等の食事・栄養管理に関する周辺業務を支援する機器・システム



認知症生活支援・認知症ケア支援

認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システム



厚生労働省HPより
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634_00013.html

介護テクノロジー利用の重点分野 9分野・16項目のご紹介動画

ここからは それぞれの重点分野について紹介します

介護テクノロジー利用の重点分野 9分野・16項目のご紹介

厚生労働省 / Ministry of Health... チャンネル登録
チャンネル登録者数 20.8万人

15 | 共有 | オフライン | 保存 | ...



ケアプランデータ連携システム

介護業務支援



地域での事業所間連携

メリット

- 転記作業の削減
- ヒューマンエラーの防止
- 業務効率の向上（本業に集中できる）
- コスト削減
- 情報伝達の迅速化・正確化
- 多職種連携の強化 など



居宅介護
支援事業所

予定



実績



予定



実績



居宅サービス
事業所

人がテクノロジーを使う理由は極めてシンプル 「便利だから」「ワクワクするから」

私たちの活動
の選択肢を
広げてくれる

体験価値が
大切

習うより
慣れろ

自分が「どの活動をどのように変えたいのか」、その目的と方向性を自らイメージすることから始まる

体験価値を感じないと
持続的活用や発展的活用
に繋がらない

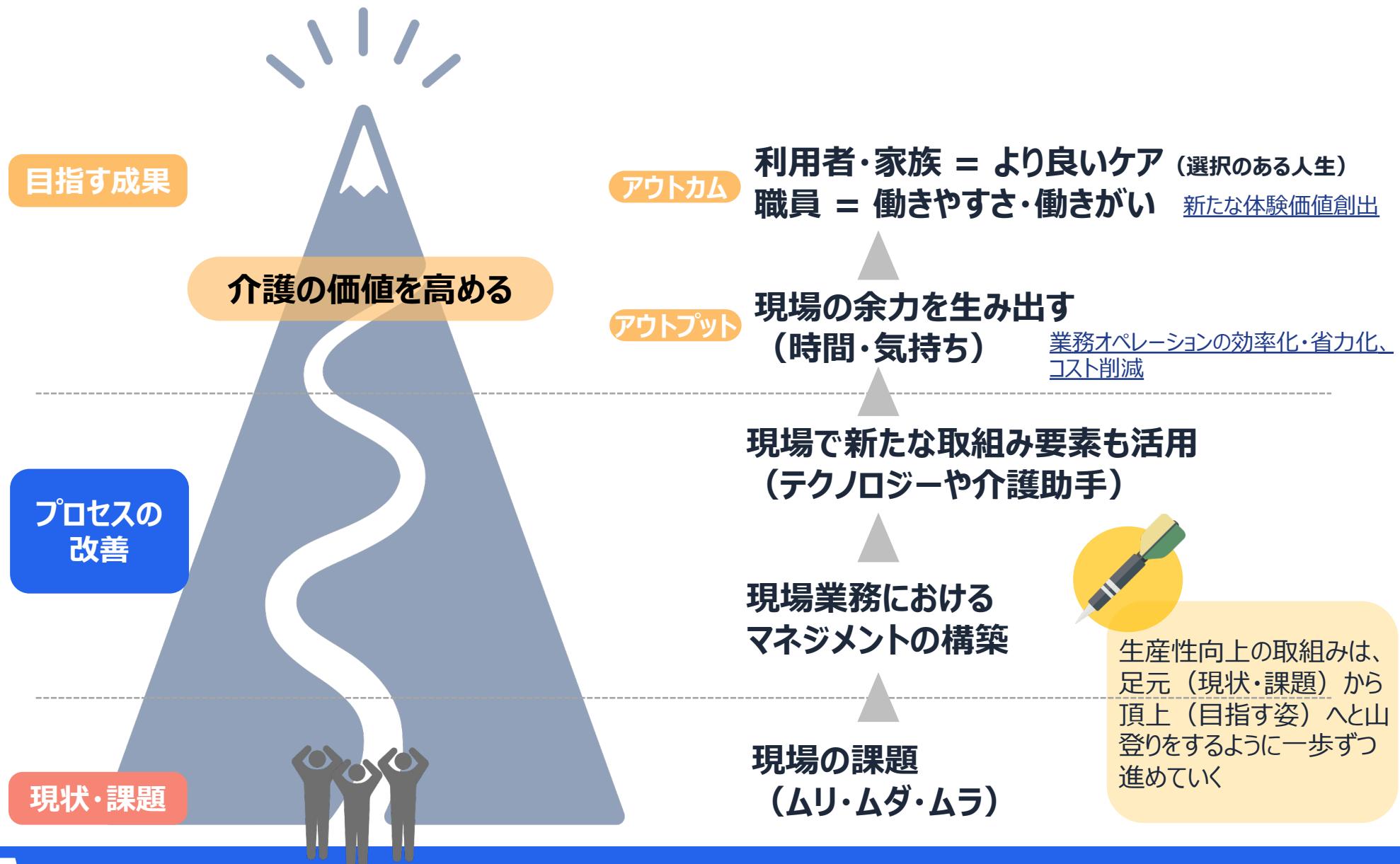
テクノロジーリテラシーの
向上のために



テクノロジーを活用しても、人や組織の考え方が従来のままでは
そのギャップがかえって現場の負担となり、生産性を下げてしまう…

介護における生産性向上とは何なのか？

介護における生産性向上とは？



どのように改善活動を進めていけばいいのか？

生産性向上ガイドラインと各テーマの手引き



基本は生産性向上ガイドライン



そのうえで、テーマごとの各論・手引き

典型的な改善活動の取組内容

①職場環境の整備

取組前



取組後



②業務の明確化と役割分担 (1)業務全体の流れを再構築

介護職の業務が明確化されていない



業務を明確化し、適切な役割分担を行いケアの質を向上



②業務の明確化と役割分担 (2)テクノロジーの活用

職員の心理的負担が大きい



職員の心理的負担を軽減



③手順書の作成

職員によって異なる申し送り



申し送りを標準化



④記録・報告様式の工夫

帳票に何度も転記



タブレット端末やスマートフォンによるデータ入力（音声入力含む）とデータ共有



⑤情報共有の工夫

活動している職員に対してそれぞれ指示



インカムを利用したタイムリーな情報共有



⑥OJTの仕組みづくり

職員の教え方にブレがある



教育内容と指導方法を統一



⑦理念・行動指針の徹底

イレギュラーな事態が起こると職員が自身で判断できない



組織の理念や行動指針に基づいた自律的な行動



これから始める方への心構え

FOMOの罠 に陥らないようにしましょう

※FOMO : Fear Of Missing Outの略
「取り残されることへの恐れ」という意味

「他施設が新たなテクノロジー機器を入れたらしい。うちも導入しないと...」

「生産性向上やDXが話題。とりあえず何か始めなければ...」

「とりあえず委員会作ってから考えるか...」

焦らなくても大丈夫です！

改善活動の標準的な6ステップ[®]

一歩ずつ登りましょう！

ありたい姿

理念・ビジョンの実現

DX・競争力強化
人材確保などの各経営戦略

ステップ⑥
実行計画を練り直そう

ステップ⑤
改善活動を振り返ろう

ステップ④
改善活動に取り組もう

“要注意” ここからスタートはリスクが高い！

いきなり改善アクション、テクノロジー機器選定・導入など

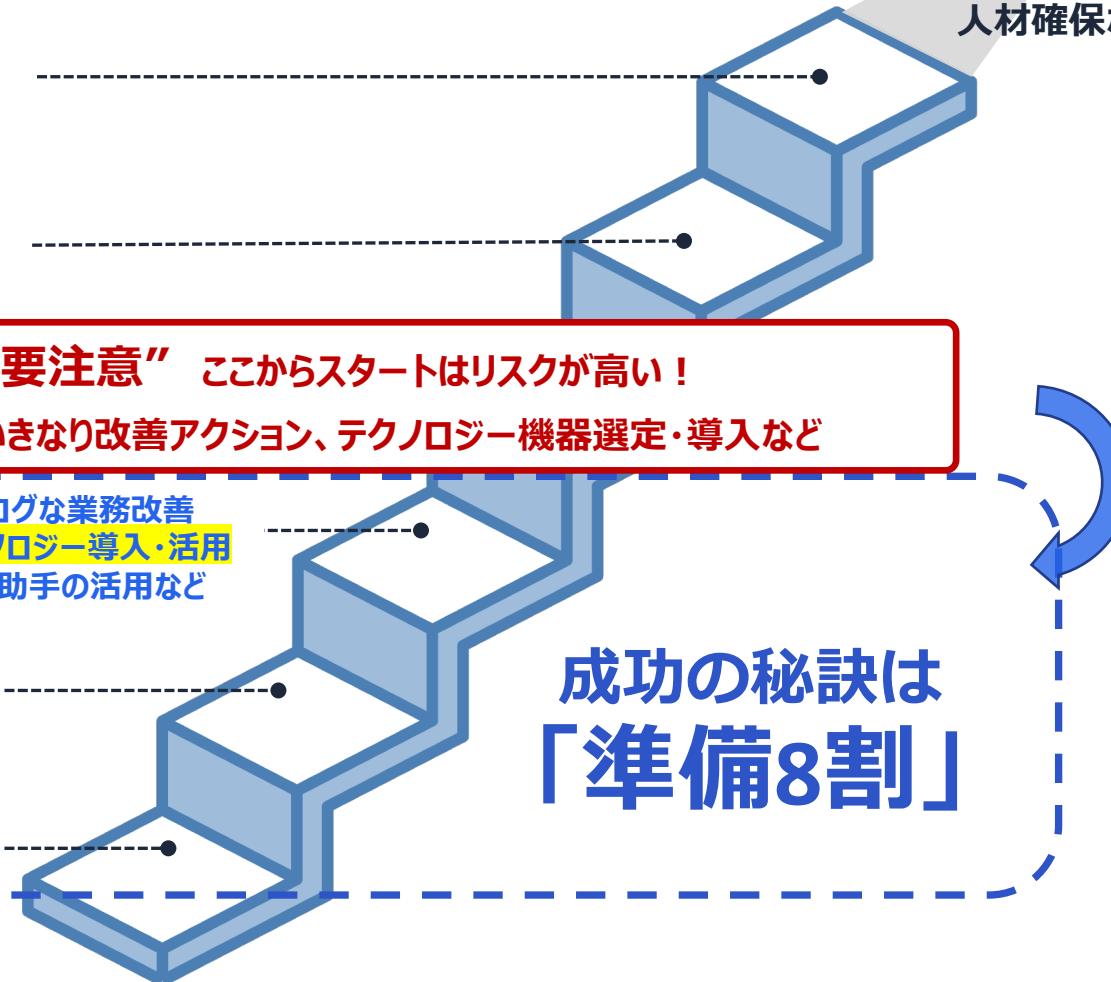
ステップ③
実行計画を立てよう：
アナログな業務改善
テクノロジー導入・活用
介護助手の活用など

ステップ②
課題を見る化しよう

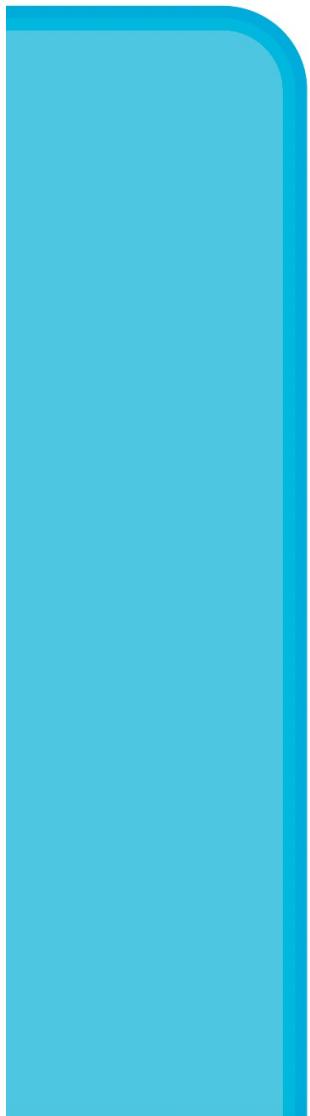
ステップ①
改善活動の準備をしよう

成功の秘訣は
「準備8割」

行き詰まつたら
立ち止まり
戻ればOK



令和7年度改訂された「共通版ガイドライン」



令和6年度改訂版
各サービス共通冊子

介護サービス事業における 生産性向上(業務改善)に資する ガイドライン

～より良い職場・サービスのために今日からできること～

厚生労働省老健局

CHAPTER

2 生産性向上に向けた 改善活動の標準的なステップ

改善活動のステップとポイント

この章では、改善活動の標準的なステップを具体的なツールの活用方法も交えながら、より実践的に紹介します。Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（修正）を繰り返し行なうことが、PDCAサイクルを回すことです。何度も繰り返しPDCAサイクルを回することで、継続的に改善活動に取り組みましょう。是非、改善活動に取り組む際の参考にしてください。

なお、詳細なツールの活用方法は、CHAPTER 3をご参照ください。



ステップ1とステップ2をおろそかにしてしまう

PDCAサイクルはPlan: 実行計画から始まりますが、実際の取組では「PDCAの準備」（ステップ1とステップ2）の段階がともに重要です。

ステップ1: 改善活動の準備では、プロジェクトチームを組成し、組織全体でプロジェクトに取り組む目的や意義について共有しましょう。ここでは経営層から組織全体に向け取組によって実現したいことやその実行体制等を示し、プロジェクトやプロジェクトチームの位置付けを明確にすることが、その後の取組

の円滑な進行につながります。
ステップ2: 課題の見える化では、現場の意見を集め、業務時間調査や因果関係図等により、現状の業務フローや職場の課題を明らかにします。これにより、改善活動の実行計画を策定することが可能になります。このように、課題に対して適切な打ち手を講じるために、その前段で課題を構造的に捉え、眞の課題を明らかにしておく必要があります。

PDCAサイクルを回すためには、実行体制の整備と課題の見える化が前提となります。取組が上手くいかない場合は、この「PDCAの準備」の段階まで立ち戻ってみることも有効です。活動をとん挫させないために、「準備8割」を合言葉に活動を進めましょう。

生産性向上の取組みが関わる加算について



生産性向上 ガイドライン

ステップ① 改善活動の準備

ステップ② 課題を見える化

準備8割

アナログな 業務改善

- ⑯ 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）等を通じて職場環境を整備している
- ⑰ 業務手順書の作成や、記録・報告様式の工夫による情報共有や作業負担の軽減を行っている

テクノロジー 活用

- ⑱ 介護ソフト（記録・請求連携など自動化）や情報端末（タブレット、スマホ、インカムなど）の導入
- ⑲ 介護ロボット（見守り・移乗・排泄支援など）または職員間連絡を迅速化するICT機器（ビジネスチャットツール等）の導入

介護助手 などの活用

- ⑳ 業務内容の明確化と役割分担を進め、特に間接業務（配膳・清掃・ベッドメイク等）を介護助手などが担当する体制構築

成果

データ提出・成果など
求められていない

待遇改善加算 (職場環境等要件)

- ㉗ 厚生労働省が示す「生産性向上ガイドライン」に基づき、業務改善活動の体制構築（例：委員会やプロジェクトチームの立ち上げ、外部研修の活用など）を行っている
- ㉘ 現場の課題の見える化を実施（例：課題抽出・構造化、業務時間調査など）

生産性向上 推進体制加算(Ⅱ)

委員会

3か月に1回以上
管理者・現場職員…
テレビ電話装置等を活用可

- ①利用者の安全及びケアの質の確保
 - ・介護テクノロジー機器×利用者ファースト×アセスメント&アップデート
- ②職員の負担の経験・勤務状況への配慮
 - ・職員にとって働きやすい環境かどうか（心身状況・業務負荷、休憩・残業）
- ③介護機器の定期的な点検
 - ・介護機器メンテナンス（点検）
- ④職員に対する研修について
 - ・介護機器の使用方法の講習など職員研修を定期開催

「業務内容の明確化や見直しを行う」「職員間の適切な役割分担」を実施

介護機器の活用

- ①見守り機器
- ②インカム・ビジネスチャットツール（全ての職員）
- ③介護ソフト

1つ以上使用

介護機器の活用

- ①見守り機器（全ての居室）
- ②インカム・ビジネスチャットツール（全ての職員）
- ③介護ソフト

全て使用

生産性向上の取組み実績データの報告

- ①利用者の満足度(WHO-5)悪化していない
- ②介護職員1月あたりの総業務時間及び超過時間短縮
- ③年次有給休暇の取得状況維持または増加

成果が求められる

- ④介護職員の心理的負担等(SRS-18)
- ⑤タイムスタディ（日中・夜間複数人-5日間）

準備8割ワーク

自分たちに合うテクノロジーの見つけ方

現状の業務課題

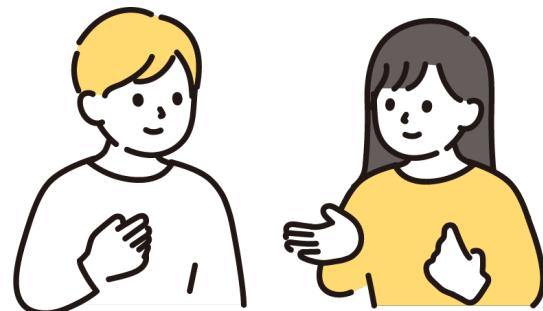
いつ・何に
どのように
困っているのか

目指すこと

それを
どんな状態に
変えたいのか

テクノロジーとの マッチング要素

それを
実現するために
どんな機能・機器が
要るのか



そのうえで…

- 展示会に参加
- ワンストップ窓口に相談
- 機器使用貸し出し
- 予算組み、補助金申請

-
- 通信環境 (Wi-Fi)
 - 導入・活用スケジュール
 - 基準・ルール・マニュアル(手順書) 作成など

みなさんが今回導入したいと思っている介護テクノロジーは何でしょうか？

1

例：見守りセンサー、介護ソフト、インカム、...



みなさんが今困っていて、改善したい業務は

2

例：見守り（夜勤）、記録・書類、コミュニケーション、...

業務名	項目	介護テクノロジー
コ 起床・就寝		
コ 移乗	移乗支援（装着）	マッスルスーツ
	移乗支援（非装着）	移乗サポートロボット
コ 移動	移動支援機器（屋外）	移動サポートロボット
	移動支援機器（屋内）	移動サポートロボット
	移動支援機器（装着）	マッスルスーツ
コ 食事	食事・栄養管理支援	
コ 排泄	排泄支援機器（動作支援） 排泄支援機器（排泄物処理） 排泄支援機器（排泄予測・検知）	スタンディングリフトetc... 自動排泄処理装置（ポートブルトレイ） 排泄予測デバイスetc...
コ 入浴	入浴支援機器	リフト、ウルトラファインパブルetc...
コ 見守り（日勤）	見守り・コミュニケーション（施設・在宅）	見守りセンサー インカム チャット
コ 見守り（夜勤）	見守り・コミュニケーション（施設・在宅）	見守りセンサー インカム チャット
記録・書類	介護業務支援機器	介護ソフト インカム
コ レク・リハ・ケア	機能訓練支援機器	機能訓練支援AIサービスetc...
	認知症生活支援・認知症ケア支援	アプリ、コミュニケーションロボットetc...
相談・プラン	介護業務支援機器	介護ソフト
コ 送迎		送迎支援システム
勤務表		自動シフト作成システム
勤怠管理		勤怠管理システム

現状の業務課題

②の業務において具体的にどのような課題がありますか？

(いつ・何に・どのように困っているのか など)

③

例：・巡回時に利用者を起こしてしまう

目指すこと

③の課題をどんな状態に変えたいのでしょうか？

④

例：・利用者が夜間安眠できるようにしたい



どんな機能・機器があれば④を実現することができるでしょうか？

テクノロジーとのマッチング要素

⑤

例

項目	眠りSCAN Eye (パラマウントベッド)
呼吸	○ (眠りSCAN)
心拍	○ (眠りSCAN)
体温	×
睡眠	○ (眠りSCAN)
体動(離床)	○ (眠りSCAN)
転倒	○
ベッド上のみの状況把握	○
居室全体の状況把握	×
画像	○
設置方法	配線工事が必要

例：詰め所にいながら、手元で利用者の状況がわかる
具体的には、利用者の動きや呼吸、心拍、脈拍などの
データを示してくれ、さらに異常時には教えてくれる

ここまでに整理した情報を持参して、展示会への参加やワンストップ窓口での相談、機器の貸し出し利用へとつなげていくとよいでしょう

介護テクノロジーの情報を得る

福祉用具情報システム（TAIS）は、国内の福祉用具製造事業者又は輸入事業者から、「企業」及び「福祉用具」情報を収集し、テクノエイド協会のホームページから情報発信するシステム

介護テクノロジー のカテゴリから探す NEW!

▼

利用シーン から探す

			
起居・就寝	移乗	立ち座り	移動
			
排泄	入浴	食事	服薬管理
			
整容	コミュニケーション	見る(視覚)	聴く(聴覚)
			
リモコン操作	外出	見守り	その他

主な 利用場所 から探す

			
寝室	リビング・居間	ダイニング・食堂	トイレ
			
浴室・脱衣所	廊下	階段	玄関
			
段差・縁石	職場	学校	公共施設
			
病院・介護施設	その他	QRコード	

※限定されないものはその他に含まれています。

福祉用具・介護ロボットの開発と普及 2024

令和7年3月

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare



自分たちに合う商品との出会い方

導入したいテクノロジー機器が
決まっている状況で
自分たちに合う商品との出会い方

- ① 導入したいと思っている**テクノロジー機器**明確にする
- ② その**テクノロジー機器**は**どの業務**で活躍できるかを明確にする
- ③ 職員が現状どのような**課題**を感じているのかを明確にする
- ④ 職員が**課題**を**どんな状態に変えたい**のかを明確にする
- ⑤ どんな**機能・機器**があればありたい姿を実現することができるのかを明確にする



自分たちに合う商品候補と出会う

導入したいテクノロジー機器が
決まっていない状況で
自分たちに合う商品との出会い方

- ① 職員が現状どのような**課題**を感じているのかいろいろな視点で声を集め1つ選ぶ
- ② 選んだ課題は、**どの業務**のことなのかを明確にする
- ③ 職員が現状どのような**課題**を感じているのかを明確にする
- ④ 職員が**課題**を**どんな状態に変えたい**のかを明確にする
- ⑤ どんな**機能・機器**があればありたい姿を実現することができるのかを明確にする
- ⑥ 導入したいと思っている**テクノロジー機器**明確にする



自分たちに合う商品候補と出会う

No Role
No Life